

生活都市の 記憶を 透かす

人形のまち岩槻を舞台に、

2026.8.29 SAT 14:00-16:00
さいたま市岩槻人形博物館 会議室

はじまりのトークイベント

人形のまち岩槻を舞台に、

はじまりの

トークイベント



申込みフォーム

2026年 8月29日(土) 14:00 - 16:00

さいたま市岩槻人形博物館 会議室

(さいたま市岩槻区本町6丁目1-1)

登壇者: 筒 | tsu-tsu (アーティスト)

渋谷まろん (批評家)

菊地浩平 (早稲田大学文学学術院准教授)

[進行] 西山夏海 (本企画キュレーター)

定 員: 30名程度 (要申込み・参加無料)

申込み: 7月14日(火) 10:00 ~ 申込み開始



筒 | tsu-tsu

実在の人物取材し、演じる一連の行為を「ドキュメンタリーアクティヴ」と名づけ実践する。

山梨県河口湖のアーティスト・ラン・レジデンス〈6okken〉主宰。

主な個展に「向く仕事」(The 5th Floor、東京、2025)、「地上」(十和田市現代美術館space、青森、2023)



渋谷まろん

演劇・パフォーマンスを中心に批評活動を展開。

最近の論考に「パレスチナの縫い目／私の縫い痕——ポストシアトリカルな絡み合いを記述する」

(せんがわ劇場WEBサイト、2025)など。

パフォーマンスアートプロジェクト「Responding」(2022-2026)に参加。



菊地 浩平

1983年、埼玉県鴻巣市生まれ。

専門は初期テレビ人形劇、人形文化論。

著書に『人形は人間のなんなんだ?』(2024、NHK出版)、『人形と人間のあいだ』(2022、NHK出版)、

『人形メディア学講義』(2018、河出書房新社)等がある。

往復書簡の詳細は、アーツカウンシルさいたま公式noteにて発信していますので、ぜひご覧ください。

他者を演じる際に、自らを「他者の魂の容れ物」と捉えるアーティストの実践は、人形という存在とどのように結びつくのでしょうか。

本イベントでは、6月から始動した、筒 | tsu-tsu 批評家・渋谷まろんによる往復書簡を手がかりに、初期テレビ人形劇、人形文化論を専門とする菊地浩平氏をゲストに迎えてトークを行います。

筒 | tsu-tsu は、実在の人物への取材をもとに演技を行う「ドキュメンタリーアクティヴ」を実践しています。

2026〜27年度の2年にわたって実施する企画「生活都市の記憶を透かす」では、アーティスト・筒 | tsu-tsu が岩槻でのリサーチを重ね、最終的に作品を制作し発表します。

アーツカウンシルさいたまでは、さいたま市の文化資源をテーマにデジタル表現を活用し、市内外に発信する事業「空想するさいたま」を実施しています。



アーツカウンシルさいたま
公式note

主催: アーツカウンシルさいたま (公益財団法人さいたま市文化振興事業団内)
〒336-0024 さいたま市南区根岸1-7-1 さいたま市文化センター4階
TEL: 048-767-5350 (火〜土 9:00〜17:00、日・月・祝日休み、月曜日が祝日の場合、翌営業日も休み)
MAIL: artscouncil@saitama-culture.jp

協力: さいたま市岩槻人形博物館



令和8年度 文化庁
文化芸術創造拠点形成事業